

# 人文社会科学の復興知に基づく 標葉地域の循環型共同教育の実践

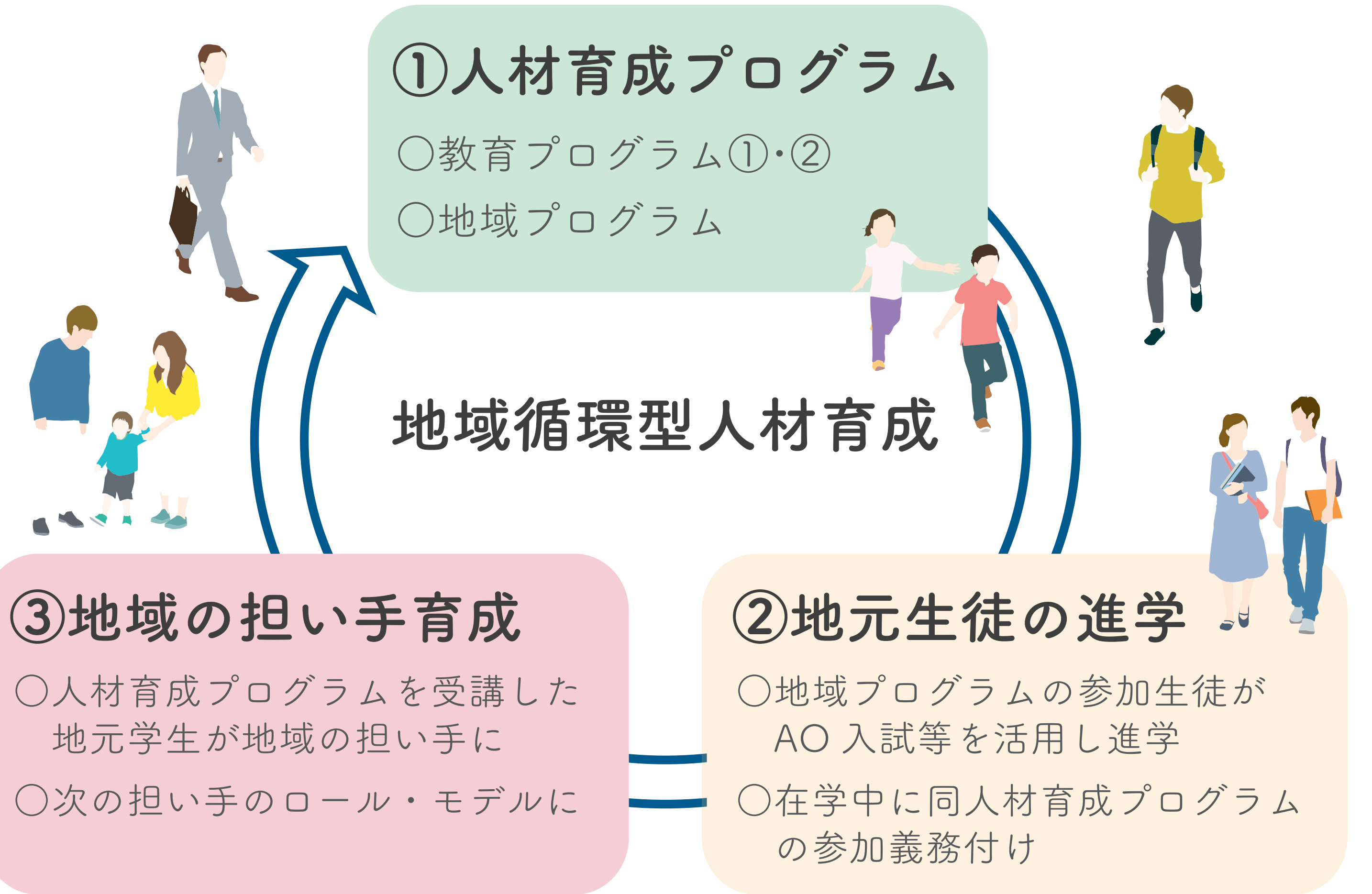


立命館大学（共同申請：東京大学、福島大学）

連携市町村：川俣町・大熊町・双葉町・浪江町・葛尾村

## 01 事業概要

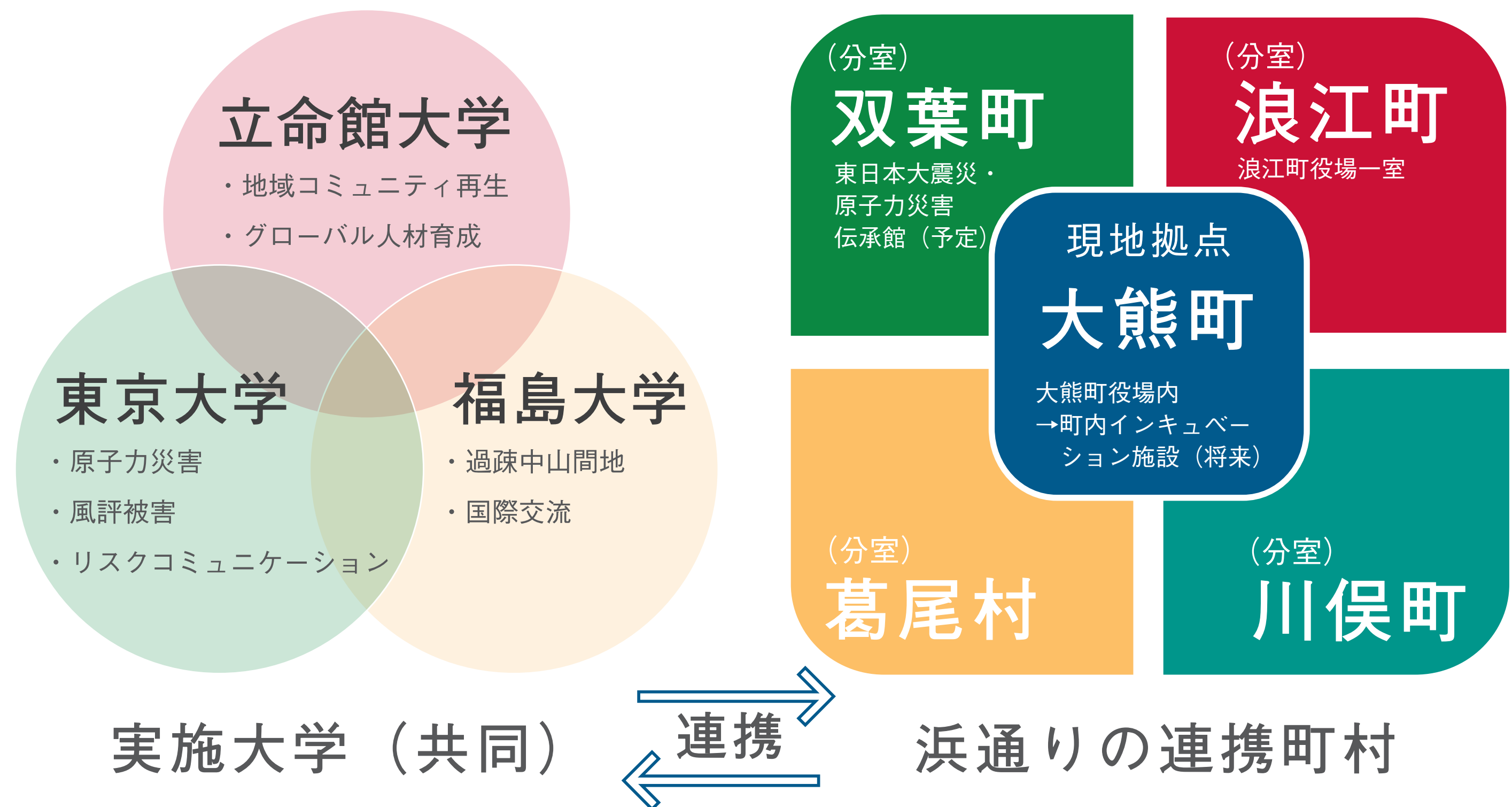
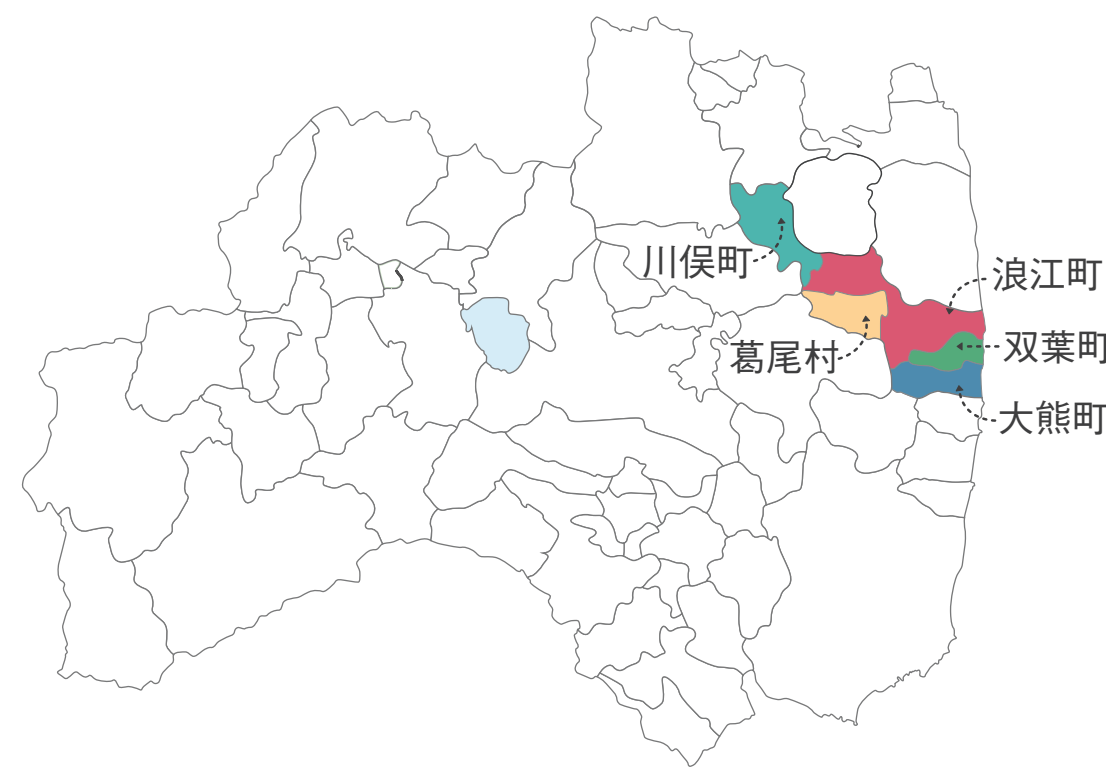
本事業は、風評払拭、リスクコミュニケーション、生業再建、コミュニティ再生などに関する人文社会科学分野の復興知をネットワークし、東日本大震災および原子力災害を研究し、長期避難を余儀なくされた浜通りに関わり研究・教育活動をしてきた3大学が共同で、学生・院生の地域でのフィールド教育、また地域の児童および住民向け教育のプログラムを構築し、教育を通して「人」が循環し交流する「地域循環型共同教育プログラム」を構築する。ひいては浜通り地域で活躍する人材、浜通り地域を研究する「地域循環型」人材を育成する。具体的には、川俣町・大熊町・双葉町・浪江町・葛尾村等の標葉地域を中心に実践する。



地域循環型人材育成プログラムの概要イメージ

## 02 市町村との連携体制の構築

浜通り特に標葉地域全体を面的にネットワークを形成する。



## 03 5年間の人材育成目標

### 人材育成目標

原子力災害によって引き起こされた地域課題を解決する課題解決型学習を中心に、「解のない課題」に挑戦する人材を育成する。

### アウトプット・アウトカムの達成目標

- 地域課題解決の担い手育成：履修生 100名、地域児童・住民 50名
  - 地元での新規雇用者年間 5名
  - 関係・交流人口年間 50人
- ※将来構想・・・AO入試等を活用し、双葉郡の児童・生徒が3大学に進学。同人材育成プログラムを履修し、長期インターシップを受講することにより地域人材の育成。

## 04 2021年度の活動内容

### ○教育プログラム①

3大学連携による課題解決型の人材育成のための教育プログラム。  
(中長期：正課教育)  
講義系科目と演習科目の組み合わせによるPBL学習の実施。(設置予定)

### ○教育プログラム②

他大学の学生・院生も対象にした地域フィールドワーク学習。  
(短期：正課外教育)

### ○地域プログラム

地域の児童および住民を対象にした「地域未来人材」育成のための教育プログラム  
(短期：地域貢献)。  
3大学連携による教育プログラムをオンラインで公開し、リスクコミュニケーションや食と農による地域再生など幅広く履修できる教育プログラムを提供する。

大学	授業・プログラム名	備考
立命館大学	・チャレンジふくしま塾	学部生約30名が標葉地域を中心にフィールドスタディを行う、正課外の授業。
東京大学	・原子力災害論Ⅲ ・メディア・ジャーナリズム研究指導	院生・学部生における防災教育（風評被害対策を含む）を中心とした授業。
福島大学	・Fukushima Ambassadors Program	海外の協定大学から留学生を約2週間のプログラムに招き、本学の学生と共に被災地などをまわりながら、福島の問題について理解するプログラム。

↑活動例：2021年度に浪江町で実施予定のプログラム



## 05 2年目の事業内容および取組の方向性

2022年度は、本プログラムの「本格実施期」と位置付ける。

### ○教育プログラム①(正課)

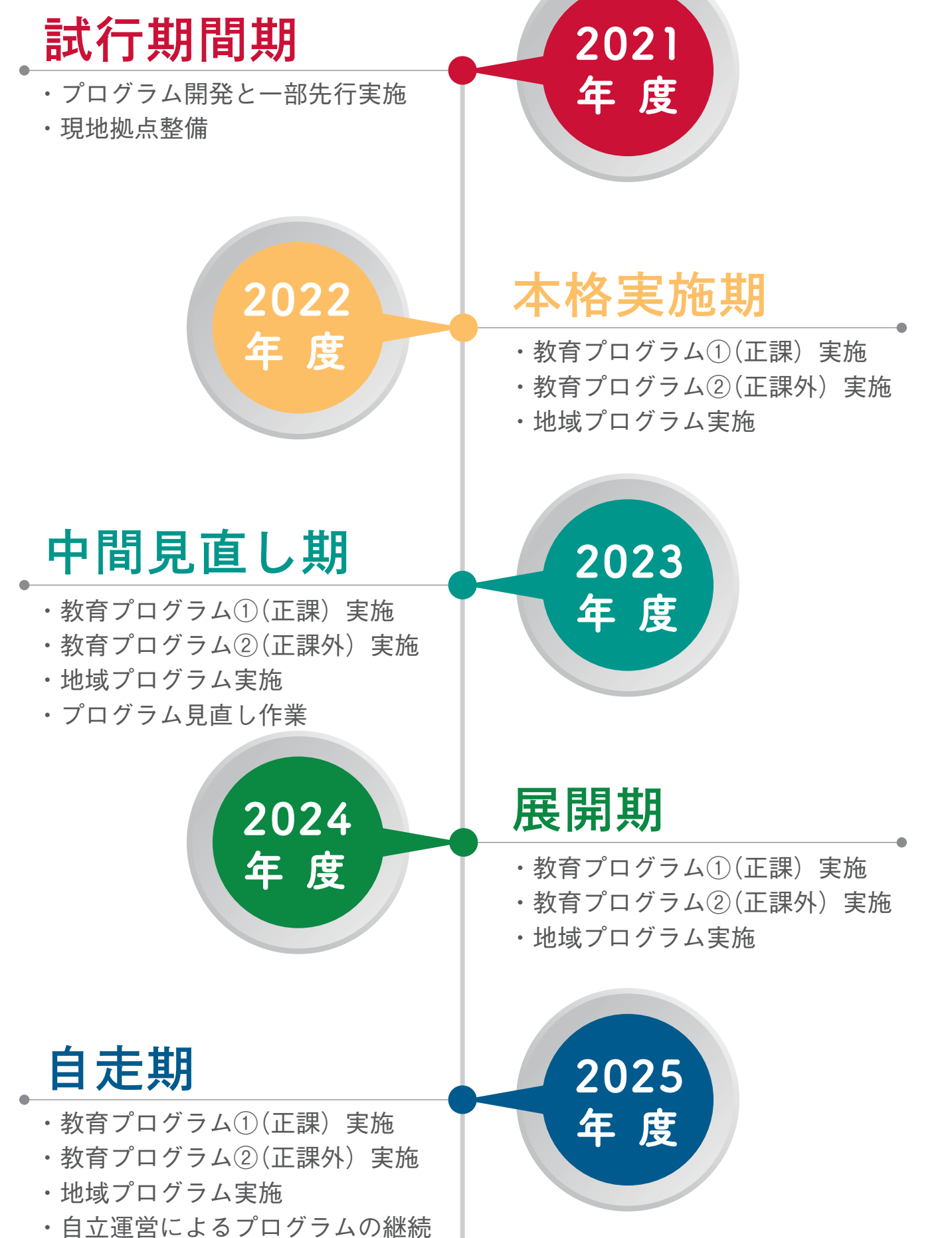
講義科目を実施するとともに、演習科目を夏季・冬季の休業期間を中心に実施する。

### ○教育プログラム②(正課外)

正課外科目について、地域学習を中心に展開する。特に3大学以外の学生にも広く周知することにより履修を促す。

### ○地域プログラム

児童・生徒を対象にした「チャレンジコミュニティワークⅠ」と、地域住民を対象にした「チャレンジコミュニティワークⅡ」を主に大熊町・双葉町で展開する。



本事業における各年度の取り組み内容